# 団 体 名：一般社団法人　SGSG
# 取組地域：岡山県　岡山市
# 取 組 名：レジリエンスを支えるユースセンターでの支援活動

### 取組の種類

| | | | |
|---|---|---|---|
| **1. つながりの場づくり** | | | |
| | 交流の場の提供 | ★ | 居場所づくり |
| | 食を通じたつながり | | 働くことを通じたつながり |
| **2. 見守り・支援体制の構築** | | | |
| ☆ | 地域の包括的見守り体制の構築 | | アウトリーチ型支援の推進 |
| **3. 情報提供・相談支援** | | | |
| | ワンストップ相談窓口の設置 | | 支援情報のポータルサイト構築 |
| | 情報発信の充実 | | SNS 等を活用した相談支援 |
| **4. 地域課題解決型の取組** | | | |
| | 買い物支援や移動支援サービスの提供 | | 空き家等を活用した地域交流拠点の整備 |
| **5. NPO 等の活動支援・連携強化** | | | |
| | 地域の NPO 等への支援 | | 官民連携プラットフォームの構築 |

### 取組の対象

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 多世代 | ★ | こども・若者 | | 中高年者 | | 高齢者 |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 障害者 | | 外国人 | | 被災者 | | 犯罪をした者等 | | LGBTQ |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 子育て世帯 | | ひとり親世帯 | | 単身世帯 |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ☆ | 不登校の児童生徒 | | ひきこもりの状態にある人 | | 生活困窮状態の人 | | 薬物依存等を有する人 | | |

| | |
|---|---|
| | 支援者支援 |

### （１）取組の内容

| | |
|---|---|
| 目的 | 「センターを利用するユース自身がその運営に積極的に参画できる仕組みを作る」「センターの広報を対象者向けと支援者向けとで戦略を分けて実施する」―これらの事業を行うことで、地域や大人が、対象者であるユースの活動を包摂し、ユース自身のレジリエンスを育成する場となることを目的とした。 |
| 対象とした人 | 活動場所（岡山市北区奉還町）に来ることのできる中学生・高校生。なお、学校への登校の有無/経済的及び精神的困難さの有無・軽重は問わない。 |
| 内容 | ・ 常設型ユースセンターの運営<br>週 5 日（火～金 15:00-19:00 ・土 11:00-16:00）オープン<br>・ ユースセンター運営チーム（#おかやま JKnote）の毎週 1 回の定例会議<br>・ ユースが主体となるイベントの開催<br>2024 年 11 月「ひゃっほう祭」を奉還町商店街内にて開催<br>2024 年 12 月「クリスマス会」を地元ライオンズクラブのみなさまと共催<br>・ ユースセンター広報（SNS/ポッドキャスト/映画制作/紙媒体の作成）<br>・ 活動報告会の開催・活動報告書の作成 |

### （２）取組の成果

| | |
|---|---|
| 連携した団体<br>協力いただいた団体 | 奉還町商店街振興組合、おかやま MOMO ライオンズクラブ、（一社）シネマフィルム、岡山市内某公民館 |
| 対象とした人とつながるために行った工夫 | 「経済的・精神的に困る前」の予防的支援を継続していくためには、広報活動を強化することが重要と捉えた。<br>広報活動の強化はセンターの認知度向上につながり、結果としてユースセンター関係人口の増加を見込むことができる。関係人口の増加は、支援を届ける対象者の数が増えるだけなく、対象者に支援を届けようとする支援者の裾野も拡がることにつながる。<br>この成果として、事情があって放課後家に居ることのできないユースへの支援を、地元の公民館とユースセンター、そしてユースセンターの活動を知った岡山市議会議員とで連携し行うという事例につながった。 |
| 定性的な成果<br>定量的な成果 | ユースセンターの運営をユースに一部担当してもらったところ、利用者の大きな行動変容として、「ユースセンターの認知度向上」が自分事となり、ユース目線での主体的な発信が定着してきた。<br>ユース目線での主体的な発信が定着し、事業開始前と比べて情報発信の頻度が増加した。<br>X 発信回数：8 月以前月平均 2.3 回、9 月-1 月平均 5 回<br>note 発信回数：月 1 回<br>利用者は 2024 年 12 月には月間 498 人（延べ人数）となり、当初設定していた目標をクリアした。（当初設定：月間 470 人）<br>【参考：2024 年下半期推移】（2023 年度平均 320 人）<br>7 月：493 人　8 月：344 人　9 月：474 人　10 月：488 人　11 月：476 人 12 月：498 人 |

### （３）取組の様子

### 団体概要

| | |
|---|---|
| 団体名 | 一般社団法人　SGSG |
| 代表者 | 野村　泰介 |
| 設立年月日 | 2018 年 2 月 19 日 |
| スタッフ数 | 4 人 |
| 団体住所 | 岡山市北区奉還町 3-1-30 |
| ウェブサイト | http://www.sgsg.work/ |
| メッセージ | ユースセンターは、「孤独・孤立を未然に防ぐ」視点に立つと、対象となるユース世代の特定の問題を解決する場としてではなく、ユースのホンネが出せる場としての機能が求められます。そのため、センターと他のセクター（福祉・行政・企業）等との日常的かつ継続的な連携が必要であると考えています。 |

## 団 体 名：一般社団法人　ジンジャー・エール
## 取組地域：岡山県　備前市
## 取 組 名：いろいろ交流プロジェクト～楽しみ・興味・悩みでつながろう～

### 取組の種類

| | | | |
|---|---|---|---|
| **1. つながりの場づくり** | | | |
| ★ | 交流の場の提供 | ☆ | 居場所づくり |
| | 食を通じたつながり | | 働くことを通じたつながり |
| **2. 見守り・支援体制の構築** | | | |
| | 地域の包括的見守り体制の構築 | | アウトリーチ型支援の推進 |
| **3. 情報提供・相談支援** | | | |
| | ワンストップ相談窓口の設置 | | 支援情報のポータルサイト構築 |
| | 情報発信の充実 | | SNS 等を活用した相談支援 |
| **4. 地域課題解決型の取組** | | | |
| | 買い物支援や移動支援サービスの提供 | | 空き家等を活用した地域交流拠点の整備 |
| **5. NPO 等の活動支援・連携強化** | | | |
| | 地域の NPO 等への支援 | | 官民連携プラットフォームの構築 |

### 取組の対象

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ★ | 多世代 | ☆ | こども・若者 | ☆ | 中高年者 | ☆ | 高齢者 |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 障害者 | | 外国人 | | 被災者 | | 犯罪をした者等 | | LGBTQ |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ☆ | 子育て世帯 | | ひとり親世帯 | | 単身世帯 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ☆ | 不登校の児童生徒 | | ひきこもりの状態にある人 | | 生活困窮状態の人 | | 薬物依存等を有する人 |

| | |
|---|---|
| | 支援者支援 |

### （１）取組の内容

| | |
|---|---|
| 目的 | 多世代を対象に、空き家を活用したコミュニティカフェや、立場・悩み・興味・楽しみ等に応じたワークショップやサロン・イベント等を開設することで、話したり一緒に活動したりする場の提供を行う。それらを通して、人と人とのつながりや関係を築いていくこと、地域のことを自分事として考えていく意識を育むこと、仲間を作ることを目的とする。 |
| 対象とした人 | 【プロジェクトによって対象は異なる】<br>高齢者、中高年者、子育て世代、課題の有無に関わらず地域に住んでいる多世代の人、中高生（不登校や発達特性のある子を巻き込む）、小学生とその保護者、移住者と移住者を支援したい地域の人 |
| 内容 | ①おしゃべりカフェ→外出機会や趣味づくりに対するアプローチ<br>②スマホよろず相談会→外出機会、生活の便利さや質の向上、趣味に関するアプローチ<br>③ママサポートワークショップ→衣・食・住、健康や趣味、家事負担の軽減に対するアプローチ<br>④校内居場所→中学校の中にある居場所を通じた外出機会（ボランティア参加）へのアプローチ<br>⑤10 代まんなか会議→当事者主体の活動による自己実現へのアプローチ<br>⑥サークル（プログラミングサークル、クラフトバンドのかごづくり）→外出機会や趣味へのアプローチ<br>⑦地域交流の場づくり（もちつき・持ち寄り豚汁の会）→食事、外出機会、交流へのアプローチ<br>⑧移住者支援の会→住環境、生活のしやすさに関するアプローチ |

## （２）取組の成果

| | |
|---|---|
| 連携した団体<br>協力いただいた団体 | 【プロジェクトによって異なる】<br>備前市地域包括支援センター・社会福祉協議会、備前市プロジェクト推進課、備前市生涯学習課・市内公民館、市内中学校・企業・市内 NPO 団体、備前市都市住宅課移住定住推進係 |
| 対象とした人とつながるために行った工夫 | 地域の祭り等での声かけ、商店や公共施設等でのチラシ配布、SNS を活用しての周知を行った。<br>スタッフの交友関係や地域のキーパーソンの情報網を活用し、個別の声かけ等によって周知を行った。<br>中高生に対しては、SNS での発信や個別の連絡に加えて、中学校との情報交換を通じて対象者と出会える工夫を行えたことが大きかった。中学校と密に連携することで、いろいろな場面で効果が期待できる。 |
| 定性的な成果<br>定量的な成果 | ②スマホよろず相談会→おしゃべりカフェは女性の参加がほとんどであったが、スマホ相談会を始めると男性や独居の高齢者の参加が増えていった。生活に欠かせないスマホに関する相談会ではあるが、居場所としての機能を持ち合わせているところや「使い方を聞く」という建前があったことで、男性にとって参加しやすい環境となったことを実感している。<br>③ママサポートワークショップ→見守りサービスのような場を確保しながら実施するヨガの講座は、ママたちの心の負担感を減らし、子育て中のママ同士の情報交換の場にもなった。また、子育てのストレスを少し解消できる場にもなっていたように感じる。<br>⑥サークル：プログラミングサークル→参加者の増加に伴って、発達特性のある子・不登校の子が集まってくるようになった。特に不登校の子どもを持つ保護者にとっては、こどもたちがゲームに代わるものとして、プログラミングに興味を持って取り組んでいることを嬉しく感じておられるようだった。保護者自身もこどもと一緒にプログラミングに取組む方がほとんどで、こどもたちだけでなく、保護者の居場所にも変化していった。 |

## （３）取組の様子

## 団体概要

| | |
|---|---|
| 団体名 | 一般社団法人　ジンジャー・エール |
| 代表者 | 東　由加 |
| 設立年月日 | 2020 年 7 月 3 日 |
| スタッフ数 | 14 人 |
| 団体住所 | 岡山県備前市日生町寒河 1037-1 |
| ウェブサイト | https://ten-goo.com/ |
| メッセージ | 当団体が行った「いろいろ交流プロジェクト」は、コミュニティカフェが無理なく自然体でできる「孤独・孤立対策」の形ではないだろうか。敷居の低い、来店できる、コミュニティカフェという形だからこそ、気軽に構えずに参加を促すことができたのは大切な要素だったと思う。期待以上の副産物も得られ、気づきや学びにつながった。 |

## 団 体 名：NPO 法人　風の家
## 取組地域：広島県　広島市　中区
## 取 組 名：早朝・夜間帯に実施するコミュニティカフェ ”よなが” の運営

### 取組の種類

| | | | |
|---|---|---|---|
| **1. つながりの場づくり** | | | |
| ☆ | 交流の場の提供 | ★ | 居場所づくり |
| | 食を通じたつながり | | 働くことを通じたつながり |
| **2. 見守り・支援体制の構築** | | | |
| | 地域の包括的見守り体制の構築 | | アウトリーチ型支援の推進 |
| **3. 情報提供・相談支援** | | | |
| | ワンストップ相談窓口の設置 | | 支援情報のポータルサイト構築 |
| | 情報発信の充実 | | SNS 等を活用した相談支援 |
| **4. 地域課題解決型の取組** | | | |
| | 買い物支援や移動支援サービスの提供 | | 空き家等を活用した地域交流拠点の整備 |
| **5. NPO 等の活動支援・連携強化** | | | |
| | 地域の NPO 等への支援 | | 官民連携プラットフォームの構築 |

### 取組の対象

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ☆ | 多世代 | | こども・若者 | | 中高年者 | | 高齢者 | | 障害者 | | 外国人 | | 被災者 | ★ | 犯罪をした者等 | | LGBTQ |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 子育て世帯 | | ひとり親世帯 | | 単身世帯 | | 不登校の児童生徒 | | ひきこもりの状態にある人 | ☆ | 生活困窮状態の人 | | 薬物依存等を有する人 | | 支援者支援 |

### （１）取組の内容

| | |
|---|---|
| 目的 | 当法人では、生活困窮者、矯正施設出所者等を対象に社会復帰支援を行っている。住む家がなく行き場がない方々のために生活の場としての宿所の提供も行っているが、退所した方々が当施設に立ち寄り、しばらく時間を過ごすことが少しずつ増えてきていた。施設退所者が再び孤立していくことを防ぐことを目的に活動していたため、退所後においても当法人が居場所として機能できるような枠組みを形成したいと考え、本活動を実施した。 |
| 対象とした人 | 男性の生活困窮者、矯正施設出所者のうち、頼れる先が無いために当施設へ保護され、再び社会へ戻っていった施設退所者を対象とする。 |
| 内容 | 18:00～22:00、5:00～8:00 の２つの時間帯に施設内でカフェを開き、訪れる退所者に対してコーヒーや茶菓子の提供を行い、来訪者が気軽に立ち寄り、安心して過ごすことができる場をつくる。<br>開かれたコミュニティカフェを目指すため、一般の方の来訪も可能とする。 |

## （２）取組の成果

| | |
|---|---|
| 連携した団体<br>協力いただいた団体 | 地域企業に本活動への理解を深めていただき、次のような連携につながった。<br>・ 近隣地域の印刷会社：広報を行うためのチラシやパンフレットの作成<br>・ カルビー広島西工場：廃棄となる商品の継続的な寄贈 |
| 対象とした人とつながるために行った工夫 | カフェ実施の時間帯にはもともと宿直スタッフが勤務しているため、宿直スタッフが並行してカフェの実施担当者として稼働した。主な業務は来訪者に対する飲食の提供、来訪者の見守り及び雑談相手であるが、もともと在籍するスタッフが対応することで、人材不足解消に加え、来訪者の安心感にもつなげた。<br>施設退所者の「仕事終わりにふらっと立ち寄りたい」、あるいは「夜間一人で心細い」、「人と一緒にいたい」等のニーズに応えられる場を目指し、カフェの運営時間を夜間帯とした。 |
| 定性的な成果<br>定量的な成果 | （定性的成果）<br>・ 以前よりも密に、職員が再出発を迎えた退所者の現状を知ることができるようになった。<br>・ 一人暮らしをする中で、困り事があった際に抱え込まずに相談をすることができる退所者が増えてきたことも、孤独・孤立を防止するという観点でとても有意義な成果であった。<br>（定量的成果）<br>・ 事業を行う前は、施設を退所した人の来訪者は一日当たり平均して 1～2 人であったが、事業を開始した後は 6 人となった。<br>・ 電話で近況を報告してくれている人が数名現れた。 |

## （３）取組の様子

## 団体概要

| | |
|---|---|
| 団体名 | NPO 法人　風の家 |
| 代表者 | 大原　嘉樹 |
| 設立年月日 | 2011 年 12 月 |
| スタッフ数 | 14 人 |
| 団体住所 | 広島県広島市中区舟入本町 17-8 |
| ウェブサイト | http://kazenoie.jp/wp/ |
| メッセージ | 日本では少子高齢化が進み、核家族化に伴い、ご近所付き合いもほとんどできていない現状があるでしょう。そんな中で、病気や障害等、いろいろな理由が重なって、簡単に孤立してしまう社会になっています。そんな現場を変えていけるような活動が広がっていくことを期待しています。 |

## 団 体 名：一般社団法人　UME プロジェクト
## 取組地域：広島県　尾道市
## 取 組 名：こどもから高齢者まで、つながり続けられる地域づくりを目指して

### 取組の種類

| | | | |
|---|---|---|---|
| **1. つながりの場づくり** | | | |
| ☆ | 交流の場の提供 | ★ | 居場所づくり |
| ☆ | 食を通じたつながり | | 働くことを通じたつながり |
| **2. 見守り・支援体制の構築** | | | |
| | 地域の包括的見守り体制の構築 | | アウトリーチ型支援の推進 |
| **3. 情報提供・相談支援** | | | |
| | ワンストップ相談窓口の設置 | | 支援情報のポータルサイト構築 |
| | 情報発信の充実 | | SNS 等を活用した相談支援 |
| **4. 地域課題解決型の取組** | | | |
| ☆ | 買い物支援や移動支援サービスの提供 | ☆ | 空き家等を活用した地域交流拠点の整備 |
| **5. NPO 等の活動支援・連携強化** | | | |
| ☆ | 地域の NPO 等への支援 | | 官民連携プラットフォームの構築 |

### 取組の対象

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 多世代 | ★ | こども・若者 | ☆ | 中高年者 | ☆ | 高齢者 |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 障害者 | | 外国人 | | 被災者 | | 犯罪をした者等 | | LGBTQ |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 子育て世帯 | | ひとり親世帯 | | 単身世帯 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 不登校の児童生徒 | | ひきこもりの状態にある人 | | 生活困窮状態の人 | | 薬物依存等を有する人 |

| | |
|---|---|
| | 支援者支援 |

### （1）取組の内容

| | |
|---|---|
| 目的 | 地域の多様な主体と連携し、孤独・孤立の日常生活領域における予防に資する「福祉を超えた」協働関係及び取組モデルを構築する。 |
| 対象とした人 | 問題の早期発見や予防により救われる地域住民：地域の居場所の活動状況を小学校区単位でアセスメントし、活動によって地域住民の関係性が再構築されることで、懸念のあるこどもや高齢者の早期発見や問題発生の予防につながった。月あたり約 5～10 人 |
| 内容 | ①空き家利活用の居場所で多世代交流イベントを開催（年 10 回開催）<br>大学生ボランティア、地域ボランティアを中心としたメンバーが地域食堂（こども食堂）等を開催して、食を通じたつながりづくりに取り組んだ。<br>②福祉専門分野の大学教授をアドバイザーとして小地域ネットワークセミナーを開催（年 4 回）<br>③地域住民による移動支援ボランティアドライバーチームを結成し通院や買い物等の高齢者の移動支援サポートを実施（月 10 回程度）<br>④経済的困難を抱える家庭のこども（母子支援センター・児童養護施設等）の学習支援事業<br>⑤一人暮らし高齢者や高齢世帯・困窮世帯等、必要な世帯への食材のお届け支援事業 |

### （２）取組の成果

| | |
|---|---|
| 連携した団体<br>協力いただいた団体 | 尾道市立大学学生ボランティア：学習支援・イベントの企画・運営、事務サポート<br>近助プロジェクトチーム（協議体。地区社協・区長会（自治会）・民生委員協議会・公民館・防犯協会で構成）：セミナー共催、事前ミーティング、告知協力等 |
| 対象とした人とつながるために行った工夫 | 発達に特性を抱えるこどもや学校を嫌がるこどもの保護者からの相談が増え、養育に不安を抱える保護者の悩みに寄り添い、解決に向けたアドバイスや場合によっては、学校との調整役になり孤立しがちな家庭へのサポート体制が構築できた。また、協議体の中心メンバーを民生委員・区長（自治会長）とし、個人情報の観点から、届きにくい受益者に対してアウトリーチ型のサポートができた。さらに、いわゆる「8050 問題」といわれる、40～50 代のこどもを持つ高齢者は、我が子のひきこもり問題を声に出しにくい環境が見受けられたが、地域の顔の見える民生委員・区長（自治会長）に話しづらいときは社会福祉協議会の「くらしサポートセンター」が相談窓口になるという情報を周知することで、実際に電話相談につながったケースがあり、事業を通じて副次的につなぐ役割を担えた。 |
| 定性的な成果<br>定量的な成果 | ・ つながりづくりマップ作製・配布：町内全戸 1,200 世帯<br>・ つながりワーカー養成講座開催：年 3 回実施/参加人数　延べ 150 人<br>・ 小地域ネットワークセミナー開催：年 4 回実施/参加人数　延べ 200 人 |

### （３）取組の様子

### 団体概要

| | |
|---|---|
| 団体名 | 一般社団法人　UME プロジェクト |
| 代表者 | 髙橋　泰司 |
| 設立年月日 | 2019 年 11 月 10 日 |
| スタッフ数 | 社員 1 人/ボランティアスタッフ 17 人 |
| 団体住所 | 〒720-0551 広島県尾道市浦崎町 2191 番地 |
| ウェブサイト | https://umeproject.jimdofree.com/ |
| メッセージ | 「孤独・孤立に悩む人を誰ひとり取り残さない社会」、「相互に支え合い、人と人とのつながりが生まれる社会」の実現に向け、一人ひとりが考え、話し合い、できる事をできる範囲で、活動を始め、その一歩を、地域みんなで取り組んでみてください。今後も連携の輪を広げ、お互いを高め合える活動にしていきましょう。 |

## 団 体 名：一般社団法人　徳島県就業支援機構
## 取組地域：徳島県内　全市町村
## 取 組 名：「つながるアグリ」野菜づくりと地域づくり

### 取組の種類

| | | | |
|---|---|---|---|
| **1. つながりの場づくり** | | | |
| ★ | 交流の場の提供 | ☆ | 居場所づくり |
| ☆ | 食を通じたつながり | | 働くことを通じたつながり |
| **2. 見守り・支援体制の構築** | | | |
| | 地域の包括的見守り体制の構築 | | アウトリーチ型支援の推進 |
| **3. 情報提供・相談支援** | | | |
| | ワンストップ相談窓口の設置 | | 支援情報のポータルサイト構築 |
| ☆ | 情報発信の充実 | | SNS 等を活用した相談支援 |
| **4. 地域課題解決型の取組** | | | |
| | 買い物支援や移動支援サービスの提供 | ☆ | 空き家等を活用した地域交流拠点の整備 |
| **5. NPO 等の活動支援・連携強化** | | | |
| ☆ | 地域の NPO 等への支援 | | 官民連携プラットフォームの構築 |

### 取組の対象

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ★ | 多世代 | ☆ | こども・若者 | ☆ | 中高年者 | ☆ | 高齢者 |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 障害者 | | 外国人 | | 被災者 | | 犯罪をした者等 | | LGBTQ |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ☆ | 子育て世帯 | | ひとり親世帯 | | 単身世帯 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ☆ | 不登校の児童生徒 | ☆ | ひきこもりの状態にある人 | | 生活困窮状態の人 | | 薬物依存等を有する人 |

| | |
|---|---|
| | 支援者支援 |

### （１）取組の内容

| | |
|---|---|
| 目的 | 休耕田の増加と地域のつながりの希薄化という、2 つの地域課題を解決する手法として、休耕田を利活用した「ハートフル市民農園」をオープンし、野菜作りを通して交流の場を提供し、地域の中の居場所づくりの一環として孤独・孤立の予防や早期対策につながる活動とすることを目的とした。 |
| 対象とした人 | 孤独を感じている方、孤立している方を対象としているが、対象者を明記し募集することで偏見が生まれ応募者が減ることも懸念されたことから、広く「野菜作りに興味のある県民」を対象として参加者を募った。 |
| 内容 | 休耕田を利活用した「ハートフル市民農園」を実施するため、広報、農地の整備、利用者の募集、説明会の開催を経て開園式を実施した。<br>農業教室を月 1 回程度開催し、利用者同士の交流、団体としての場づくり、相談・対話の機会を創出した。<br>その他イベントを開催し、地域関係者とのつながりや他団体との連携事業も行った。<br>SNS を介して情報を共有し、密なやり取りを行い、利用を継続していただけるよう努めた。<br>利用者が自分のペースで農園を利用し、同じタイミングで来られた利用者や周辺住民の方とコミュニケーションをとる機会を設けた。 |

## （２）取組の成果

| | |
|---|---|
| 連携した団体<br>協力いただいた団体 | 近隣にフードバンクとくしまが運用する畑があり、相互に声かけを行い協業できる部分は連携して取り組んだ。また、近隣住民とも畑や栽培方法等、共通の話題で交流を持つ機会が多かった。 |
| 対象とした人とつながるために行った工夫 | 農業教室以外の日は、利用者が都合のよい時に畑に来て、野菜作りを行っていた。農業指導員がいないときの対応として、種の撒き方、収穫方法等をグループ LINE に動画でアップし、共有した。<br>農業指導員の知識と技術、知恵が利用者のこころを動かし信頼につながった。 |
| 定性的な成果<br>定量的な成果 | ・ 農園契約者数　10 人<br>・ 利用者実人数　28 人<br>・ 月別来畑者延べ人数　146 人（法人が確認している人数　スタッフ不在時の利用多数あり）<br>（定性的成果）<br>説明会で行ったネームプレートづくりでは、個々の作業となっており利用者間の交流はなかったが、開園式で畝をたてる、苗を植える等の共同作業を通して、相互の声かけが始まった。その後は、農業教室を重ねる度に、経験者から初心者へ助言をする、一人で大変な作業は自然と手伝う等の交流が生まれた。<br>利用者のアンケートにおいても、本事業に対する満足度 100%、暮らしや気持ちの変化があった方 80%と、気持ちや行動への変化が生まれていることがわかった。 |

## （３）取組の様子

## 団体概要

| | |
|---|---|
| 団体名 | 一般社団法人　徳島県就業支援機構 |
| 代表者 | 理事長　三橋　松男 |
| 設立年月日 | 2009 年４月 |
| スタッフ数 | 理事３人　監事１人　スタッフ 11 人（アルバイト含） |
| 団体住所 | 徳島県徳島市昭和町３丁目 35－２ヒューマンわーくぴあ徳島２階 |
| ウェブサイト | https://sienkikou.com/ |
| メッセージ | ストレス社会の中で孤独を感じる方にとって、直接的なストレス要因へのアプローチではないが、自然と触れ合うことや仲間が得られることは、一つの居場所が増えることにつながり、孤独・孤立の防止につながったと感じている。 |

## 団 体 名：特定非営利活動法人　ニュースタート事務局

## 取組地域：徳島県・高知県・愛媛県・香川県（鳴門市から遍路道沿いの各市区町村）

## 取 組 名：ひきこもり遍路２０２４

### 取組の種類

| | | | |
|---|---|---|---|
| **1. つながりの場づくり** | | | |
| ★ | 交流の場の提供 | | 居場所づくり |
| | 食を通じたつながり | | 働くことを通じたつながり |
| **2. 見守り・支援体制の構築** | | | |
| | 地域の包括的見守り体制の構築 | | アウトリーチ型支援の推進 |
| **3. 情報提供・相談支援** | | | |
| | ワンストップ相談窓口の設置 | | 支援情報のポータルサイト構築 |
| | 情報発信の充実 | ☆ | SNS 等を活用した相談支援 |
| **4. 地域課題解決型の取組** | | | |
| | 買い物支援や移動支援サービスの提供 | | 空き家等を活用した地域交流拠点の整備 |
| **5. NPO 等の活動支援・連携強化** | | | |
| | 地域の NPO 等への支援 | | 官民連携プラットフォームの構築 |

### 取組の対象

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 多世代 | | こども・若者 | | 中高年者 | | 高齢者 |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 障害者 | | 外国人 | | 被災者 | | 犯罪をした者等 | | LGBTQ |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 子育て世帯 | | ひとり親世帯 | | 単身世帯 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 不登校の児童生徒 | ★ | ひきこもりの状態にある人 | | 生活困窮状態の人 | | 薬物依存等を有する人 |

| | |
|---|---|
| | 支援者支援 |

### （１）取組の内容

| | |
|---|---|
| 目的 | ひきこもりやニート当事者等、人生の目的を喪失している状態にある若者（目的喪失の若者）に、住民との交流や自分自身との対話を通じて世界を広げ、「自分なりの生き方」を発見してもらうことを目的として 62 日間かけて四国遍路を徒歩で一周する体験型ツアーを実施した。 |
| 対象とした人 | ニート・ひきこもり状態にある人・大学不登校・失業中等、目的喪失の若者（18 歳～45 歳） |
| 内容 | ニートやひきこもり状態にある人等、目的喪失の若者向けに、62 日間かけて四国遍路を徒歩で一周する体験型ツアーを実施した。当該ツアーは、地元住民との交流や自分自身との対話を通じて世界を広げ、「自分なりの生き方」を発見してもらうことを狙ったプログラムである。体験内容の充実と参加費の軽減を目指し、遍路道沿いの各地域住民との連携強化に努めた。<br>また、過去のツアー参加者・スタッフ・地元支援者等との継続的な交流の場及び支援の窓口となるオンラインコミュニティを設置し、道中やツアー終了後にオンライン交流会を実施した。 |

### （２）取組の成果

| | |
|---|---|
| 連携した団体<br>協力いただいた団体 | ・ より多くの方に参加いただけるよう参加費を抑えるため、寺院や宿泊施設、自治体等に協力を呼びかけた。<br>・ 参加者募集のため、マスメディアに協力を依頼した。 |
| 対象とした人とつながるために行った工夫 | 参加のハードルを下げるため、通常の半分程度の参加費用で募集した。また、お遍路の途中からの参加も受け入れた。これにより、昨年の倍程度、外部から積極的な問い合わせがあった。特に、親族等の支援によらず、自己資金で参加を希望する当事者（定職に着いていない者）からの問い合わせが 5 件（過去 2 年間は 1 件もなかった）あり、実際に 2 人が参加に結びついた。 |
| 定性的な成果<br>定量的な成果 | （定性的成果）<br>・ 参加者同士は集合するまでお互い面識がなかったが、日を追うに連れて関係性が形成され、会話が増えた。<br>・ 最初は全てにおいて受動的、消極的であったのが、1 週間ほどたつと積極的に意見や主張をすることも増えた。<br>（定量的成果）<br>・ 参加者 6 人のうち、1 人が途中帰宅したが、その後初めてのアルバイトを開始した。<br>・ 全行程終了後に、1 人がアルバイトを再開、1 人が求職活動を開始、ほか 3 人は弊団体が実施する千葉県の寮のプログラムに参加するに至った。 |

### （３）取組の様子

### 団体概要

| | |
|---|---|
| 団体名 | 特定非営利活動法人　ニュースタート事務局 |
| 代表者 | 二神　能基 |
| 設立年月日 | 1994 年 4 月 |
| スタッフ数 | 約 20 人 |
| 団体住所 | 千葉県浦安市美浜１－３－１００６ |
| ウェブサイト | https://www.newstart-jimu.com/ |
| メッセージ | 地域の伝統文化と結びつけることで、当事者が地域と関わりやすくなり、支援者側も参加のきっかけになると感じました。また、当事者が近い立場の人や少し先を進む仲間と交流できると、自身の未来について具体的なイメージが湧きます。今後も、このような方々と当事者との交流機会創出に取り組んでいきたいと思います。 |

# 団 体 名：一般社団法人　hito.toco
# 取組地域：香川県内　全市町
# 取 組 名：ひととこオフ会

### 取組の種類

| | | | |
|---|---|---|---|
| **1. つながりの場づくり** | | | |
| ★ | 交流の場の提供 | | 居場所づくり |
| | 食を通じたつながり | | 働くことを通じたつながり |
| **2. 見守り・支援体制の構築** | | | |
| | 地域の包括的見守り体制の構築 | | アウトリーチ型支援の推進 |
| **3. 情報提供・相談支援** | | | |
| | ワンストップ相談窓口の設置 | | 支援情報のポータルサイト構築 |
| | 情報発信の充実 | | SNS 等を活用した相談支援 |
| **4. 地域課題解決型の取組** | | | |
| | 買い物支援や移動支援サービスの提供 | | 空き家等を活用した地域交流拠点の整備 |
| **5. NPO 等の活動支援・連携強化** | | | |
| | 地域の NPO 等への支援 | | 官民連携プラットフォームの構築 |

### 取組の対象

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 多世代 | | こども・若者 | | 中高年者 | | 高齢者 | | 障害者 | | 外国人 | | 被災者 | | 犯罪をした者等 | | LGBTQ |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ☆ | 子育て世帯 | | ひとり親世帯 | | 単身世帯 | ☆ | 不登校の児童生徒 | ★ | ひきこもりの状態にある人 | | 生活困窮状態の人 | | 薬物依存等を有する人 | | 支援者支援 |

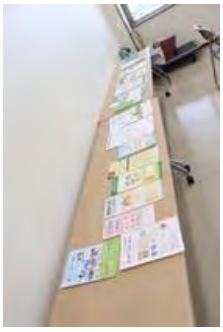
### （１）取組の内容

| | |
|---|---|
| 目的 | 複数の自治体で広域に実施することで、身近すぎない場所で、まずはひきこもり当事者の家族同士がつながれる場を提供する。そのことが家族自身の孤独・孤立防止につながる。また、家族のエンパワメントや家族に社会資源の情報提供等をすることで、ひきこもり当事者本人とのコミュニケーションの見直しやひきこもり状態の早期解消につなげていく。 |
| 対象とした人 | 不登校・ひきこもり等様々な生きづらさを抱える方を支える家族を中心に、当事者・経験者、支援者、専門職の方等、幅広く対象とした。 |
| 内容 | 不登校やひきこもり支援では、本人が相談に来ないことが多い中で、身近な関係者である家族への支援が重要と考え、まずは家族が集まれる居場所「ひととこオフ会」を実施する。<br>・ ひととこオフ会 in 坂出：支援機関の情報提供及び運営団体（社協、子育て支援）の紹介、体験談発表（不登校・ひきこもり経験者）と座談会<br>・ ひととこオフ会 in 丸亀：体験談発表（不登校・ひきこもり当事者の親）と座談会<br>・ ひととこオフ会 in サンポート高松：複数の支援機関等による運営と支援の情報提供、体験談発表（ひきこもり経験者・現代美術家・社会活動家）と座談会 |

### （２）取組の成果

| | |
|---|---|
| 連携した団体<br>協力いただいた団体 | ひとととこオフ会 in 坂出：認定 NPO 法人わははネット、坂出市社会福祉協議会、香川県ひきこもりサポーター<br>ひとととこオフ会 in 丸亀：丸亀市、丸亀市教育委員会、丸亀市社会福祉協議会、香川県ひきこもりサポーター<br>ひとととこオフ会 in サンポート高松：香川県、香川県教育委員会、高松市、高松市教育委員会、香川県社会福祉協議会、高松市社会福祉協議会、香川県ひきこもりサポーター |
| 対象とした人とつながるために行った工夫 | 広く情報を届けるために周知広報に力を入れ、「in 坂出チラシ 600 部」「in 丸亀チラシ 500 部」「in サンポート高松チラシ 9500 部」を県内の自治体、公私立の小中高校や特別支援校、教育委員会や民間支援団体、居場所、精神科医療機関、図書館、郵便局、スーパー、コンビニ等へ配布した。またホームページや SNS でのイベント周知も複数回実施した。 |
| 定性的な成果<br>定量的な成果 | ・ 香川県の約半数の自治体から参加いただき、「身近な市町だと近すぎて参加しづらい」という課題に対して、複数自治体で開催することによって参加がしやすくなるという一定の効果を感じた。<br>・ 10 代以下の子どもの家族の参加が一番多く、ひきこもり状態になった期間が短い段階でつながるきっかけとなった。「自分だけでない」ことを感じてもらうことや支援情報を得ることで、家族自身の孤独・孤立防止にもなったと考える。<br>・ 「ひとととこオフ会」に参加して感じた効果として、「役に立った」90%以上、「本人の気持ちが少し理解できた」40%以上、「本人への関わり方を知れた」40%以上の回答を得ることを目指した。それまでは相談すること自体に抵抗感を示していた家族もいたが、どの目標も大幅に超える結果となった。<br>・ 体験談発表についての満足度は「満足」が 87.5%「やや満足」が 12.5%　、座談会についての満足度は「満足」が 84.5%「やや満足」が 15.5% と、いずれのプログラムに対する満足度も高く、また、どちらも「やや不満足」「不満足」は 0%であった。 |

### （３）取組の様子



### 団体概要

| | |
|---|---|
| 団体名 | 一般社団法人　hito.toco |
| 代表者 | 宮武　将大 |
| 設立年月日 | 2016 年 |
| スタッフ数 | 27 人 |
| 団体住所 | 香川県高松市瓦町 2-2-13　新瓦町ビル |
| ウェブサイト | https://hitotoco.or.jp/ |
| メッセージ | ひとととこオフ会に来られた多くの方が「家族の、もしくは自身の生きづらさに対して何か解決の糸口が見つからないか」との思いを持っています。ひとととこオフ会を通じてさまざまな考えや価値観を知り、共感や情報を得ることで、不登校やひきこもりが生きていく中での通過点の一つになることを願って、これからも開催していきたいと思います。 |

## 団 体 名：一般社団法人　小豆島子ども･若者支援機構
## 取組地域：香川県　小豆郡
## 取 組 名：無農薬農園活動を通した地域ネットワーク作りによる孤立化予防

### 取組の種類

| | | | |
|---|---|---|---|
| **1. つながりの場づくり** | | | |
| ★ | 交流の場の提供 | ☆ | 居場所づくり |
| ☆ | 食を通じたつながり | | 働くことを通じたつながり |
| **2. 見守り･支援体制の構築** | | | |
| | 地域の包括的見守り体制の構築 | | アウトリーチ型支援の推進 |
| **3. 情報提供･相談支援** | | | |
| | ワンストップ相談窓口の設置 | | 支援情報のポータルサイト構築 |
| | 情報発信の充実 | | SNS 等を活用した相談支援 |
| **4. 地域課題解決型の取組** | | | |
| | 買い物支援や移動支援サービスの提供 | | 空き家等を活用した地域交流拠点の整備 |
| **5. NPO 等の活動支援･連携強化** | | | |
| | 地域の NPO 等への支援 | | 官民連携プラットフォームの構築 |

### 取組の対象

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ★ | 多世代 | ☆ | こども･若者 | | 中高年者 | ☆ | 高齢者 |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ☆ | 障害者 | | 外国人 | | 被災者 | | 犯罪をした者等 | | LGBTQ |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ☆ | 子育て世帯 | ☆ | ひとり親世帯 | ☆ | 単身世帯 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ☆ | 不登校の児童生徒 | | ひきこもりの状態にある人 | ☆ | 生活困窮状態の人 | | 薬物依存等を有する人 |

| | |
|---|---|
| | 支援者支援 |

### （1）取組の内容

| | |
|---|---|
| 目的 | 「つながりづくり」のきっかけとなる場所づくりや誰でも参加できる活動を促進したいと考えた。本地域において、孤独や孤立で寂しさを抱えている人や一人で困っている方々が、より多くの地域の人たちと出会えることを目的とした。 |
| 対象とした人 | こども、ひとり親、不登校のこども、孤独の中で子育てをしている家族やその関係者、一人暮らしの高齢者、つながりがなくて居場所を求めている島民とその関係者、そして、課題の有無に関わらず人と交流したいと考えている地域住民を対象とした。 |
| 内容 | 「菌ちゃん畑」の農園活動の一環である居場所づくりや仲間づくりを通して、地域住民の孤独･孤立防止に努めた。<br>循環型地域社会を作るための無農薬農園づくり活動を通して、メンバーが、地域の気になる方々に声をかけたり、SNS でつながったりすることで、つながりの輪が拡がった。農園活動の体験者が増え、イベントを通じて新たなつながりもでき、地域のネットワークが拡大した。 |

### （２）取組の成果

| | |
|---|---|
| 連携した団体<br>協力いただいた団体 | 地域の子育て支援団体：自主上映会開催に当たって、上映中の保育を依頼する等の協力を得たことで、親子や家族での多数の参加があった。<br>町の行政機関等：イベントのフライヤー配布に際し、町の広報誌等への掲載をお願いした。<br>地域の協力者：地域の店舗や農園と協力し、イベントを開催したり、寄付を受けたりした。<br>県外の紹介者：イベントの趣旨に沿った講師を招聘するため、県外の紹介者に講師と本事業との仲介を依頼した。また、食材を購入したことをきっかけとして、県外の他の農家との交流が始まり、その後の連携につながった。 |
| 対象とした人とつながるために行った工夫 | 島内では、「口コミが何より強い」と言われているため、地域のことを知り尽くしている「地域の宝物」たちに仲間になってもらい、多くの人に声をかけてもらった。また、地域おこし協力隊にも声をかけ、協力を得た。<br>行政と連携し、フライヤーを全島に配布した。<br>参加者とつながり続けるために、マメな連絡を繰り返した。一人のメンバーが何度もアウトリーチを繰り返すには忍耐力等の限界があるため、別の人からも臨機応変に声かけを行ったり、活動に誘ったりした。 |
| 定性的な成果<br>定量的な成果 | 「本事業に参加する前の孤立状態であったときには、問題を個人で抱え込みがちであったが、本事業に参加し、他者と関わり交流が生まれたことで、生き生きとした笑顔が増え、心的ストレスが軽減された」という意見があった。<br>また、対象者ではないものの、メンバー自身も相互交流の効果で、生き生きと活動し始めた。住む地域をもっと良くしようという意欲に駆られ、将来に向かっての計画や活動・夢の話に花が咲くという相乗効果が得られた。<br>本事業だけではなく、他の地域活動への拡がりも認められている。地域のために、農園に隣接する空き家を購入したメンバーが現れ、そこを地域に開放することで、さらなる居場所として活用しようとしている。このことは、空き家問題の解決にも寄与している。<br>本事業の中心メンバーのグループが、本活動をきっかけに法人としての事業化に向けて進み出した。<br>人口が 2 万 5 千人ほどの本地域で、本事業によって半年でおおよそ 700 人近くの関係交流数を生み出した意義は大きい。 |

### （３）取組の様子

### 団体概要

| | |
|---|---|
| 団体名 | 一般社団法人　小豆島子ども・若者支援機構 |
| 代表者 | 岡　広美 |
| 設立年月日 | 2018 年 7 月 10 日 |
| スタッフ数 | 約 20 人(有償ボランティア含) |
| 団体住所 | 香川県小豆郡土庄町甲 636-4 |
| ウェブサイト | https://shodoshimakw.com/ |
| メッセージ | 本地域には「放っておかへんで」という言葉がある。一見するとそれはお節介とも取られかねないのだが、「スーパーフレンドリー」と考えれば、とてもありがたいことである。「困ってる」「無理」「助けて」と、なんでもいいから気持ちを教えてほしい。「私は必要とされている」と感じられる、そんな思いや行動が、どの地域でも広がることを願っている。 |